

デジタル庁  
Digital Agency

# 情報アクセシビリティに関する 取り組みのご紹介

デジタル庁 戦略・組織グループ  
統括官付参事官補佐 坂本 秋彦

2023.11.8

1. 自己紹介
2. デジタル庁のミッション・ビジョン・バリュー
3. アクセシビリティチームについて
4. デジタル庁での取り組みのご紹介

# 01

## 自己紹介

自己紹介

坂本 秋彦（さかもと あきひこ）



2022年1月からデジタル庁参事官補佐

デジタル庁において、政府共通ウェブサイトプロジェクト、デジタル庁ウェブサイトの運営、サービスデザイン、ウェブアクセシビリティ、オープンガバメント等を担当

# 02

## デジタル庁のミッション・ビジョン・バリュー

## デジタル庁のミッション・ビジョン・バリュー

### ミッション

誰一人取り残されない、  
人に優しいデジタル化を。

### ビジョン

優しいサービスのつくり手へ。  
大胆に革新していく行政へ。

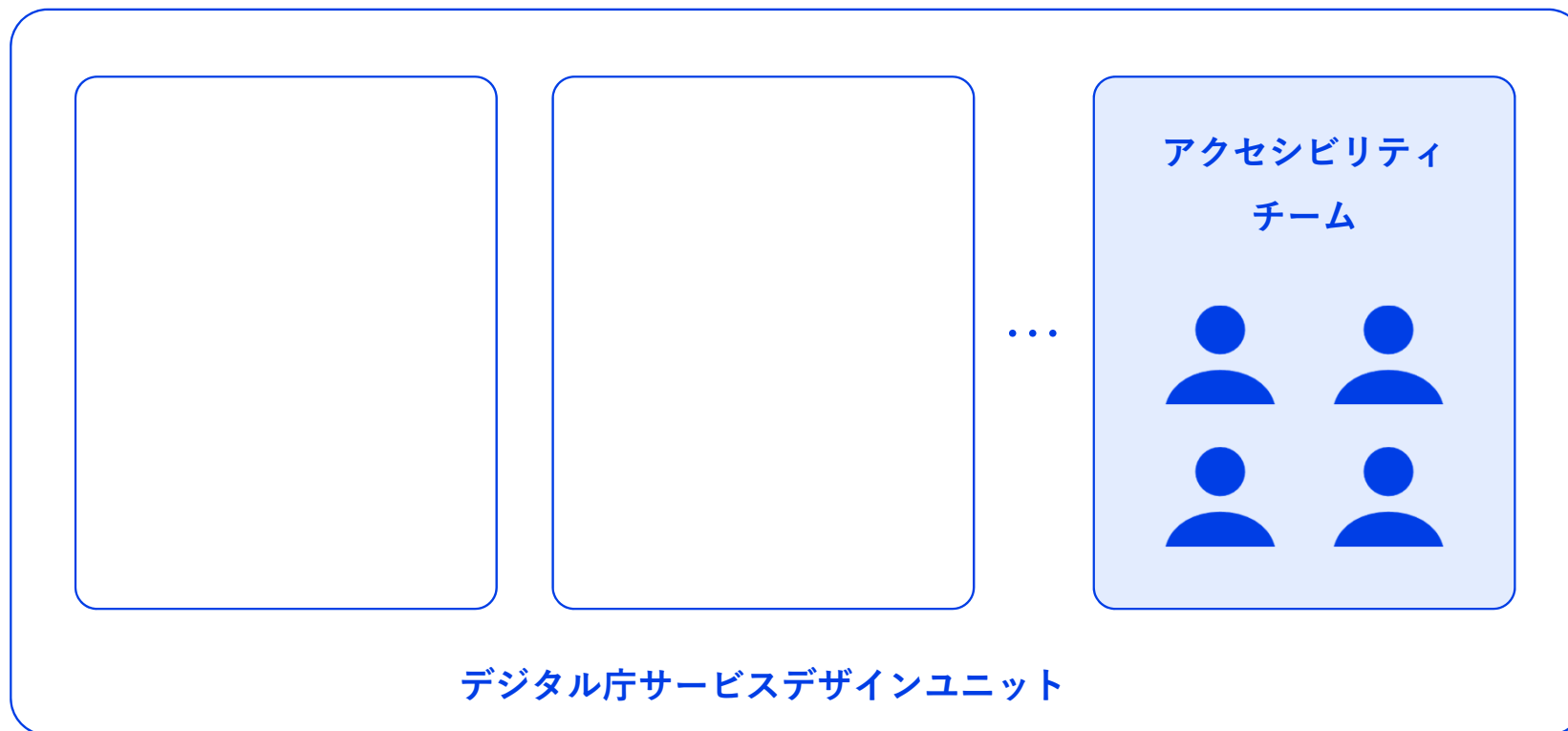
### バリュー

一人ひとりのために  
常に目的を問い  
あらゆる立場を超えて  
成果への挑戦を続けます

# 03

## デジタル庁の体制 (アクセシビリティチーム) について

## アクセシビリティチームについて



サービスデザインユニットに所属  
視覚障害当事者2名を含むアクセシビリティアナリスト4名で構成



# 04

## アクセシビリティは誰のためか

アクセシビリティは誰のためか

アクセシビリティは他人事ではなく自分事

アクセシビリティを担保する  
ということ



障害を持つ人の情報の取得性が向上



データの再利用性が上がり、様々な機器で利用可能に

# 05

## デジタル庁での取り組みのご紹介

デジタル庁での取り組みのご紹介

# デザインシステム

2022年11月公開

<https://www.digital.go.jp/policies/servicedesign/designsystem>

色覚特性やディスレクシアなどにも配慮したUIライブラリを提供  
随時アップデート中

## カラースキーム

2022年5月30日 アップデート

**基本カラー**  
一貫して使われる色です。このほか、状況に応じて色を変更します。

**Background**

- Base #FFFFFF 背景色(白)
- Card #F0F0F0 カード色(薄いグレー)
- Card #E0E0E0 カード色(濃いグレー)
- Card & Footer #D0D0D0 カード色(最濃いグレー)
- Background #E0E0E0 背景色(薄いグレー)

**Text**

- Primary #333333 主要なテキスト(黒)
- Secondary #666666 二次的なテキスト(濃いグレー)
- List #777777 リスト(濃いグレー)
- Disable #999999 無効状態(グレー)
- On-Fill #999999 強調状態(グレー)

**Border**

- Card #E0E0E0 カードの境界線(薄いグレー)
- List #777777 リストの境界線(濃いグレー)
- Table #D0D0D0 テーブルの境界線(グレー)
- Fill #A0A0A0 塗りつぶし(濃いグレー)
- Border #808080 境界線(グレー)

**Button / Primary**

- Normal #0070C0 通常状態(青)
- Hover, Active #0056B3 ホバー/アクティブ状態(濃い青)

**Button / Secondary**

- Normal #0070C0 通常状態(青)
- Hover, Active #0056B3 ホバー/アクティブ状態(濃い青)

**Button / Disabled**

- Fill #A0A0A0 塗りつぶし(濃いグレー)
- Border #808080 境界線(グレー)

**List**

- Normal #0070C0 通常状態(青)
- Hover #0056B3 ホバー状態(濃い青)
- Active #0070C0 アクティブ状態(青)

**Text Link**

- Normal #0070C0 通常状態(青)
- Hover #0056B3 ホバー状態(濃い青)
- Visited #5B9BD5 既読状態(濃い青)

**States**

- Success #52B821 成功(緑)
- Warning #FFC000 警告(黄)
- Error #C00000 エラー(赤)

**Color Name**

- #0070C0 青
- #0056B3 濃い青
- #5B9BD5 濃い青
- #52B821 緑
- #FFC000 黄
- #C00000 赤

**Color Usage**

色の組み合わせのルール

- 色の組み合わせが異なる場合、コントラスト比が1.5以上ある必要がある。
- 色の組み合わせが異なる場合、コントラスト比が4.5以上ある必要がある。
- 色の組み合わせが異なる場合、コントラスト比が7.0以上ある必要がある。

**文字における最低限のコントラスト比**

テキスト及び文字画像の解像度表示に、少なくとも4.5:1のコントラスト比を確保します。サイズが異なるテキストは(少なくとも)18ポイント。

**文字**

日常生活に大きな影響がある行状サービス、利用者の目障りな使いやすさを向上させていきます。

日常生活に大きな影響がある行状サービス、利用者の目障りな使いやすさを向上させていきます。

日常生活に大きな影響がある行状サービス、利用者の目障りな使いやすさを向上させていきます。

**コントラスト比**

- 4.5:1
- 7.0:1
- 15.1:1

**デジタル庁**

デジタル庁 デジタル庁 デジタル庁

コントラスト比 4.5:1 7.0:1 15.1:1

コントラスト比 4.5:1 7.0:1 15.1:1

コントラスト比 4.5:1 7.0:1 15.1:1

## 色覚特性への配慮

## タイポグラフィ

2022年3月31日 アップデート

**フォントファミリー**

Regular(400) Noto Sans JP  
Bold(700) Noto Sans JP

推奨フォントファミリー  
Noto Family:  
"Noto Sans JP", apple-system, BlinkMacSystemFont, "Segoe UI", "Meiryo UI", "Helvetica Neue", "Arial", sans-serif

フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。

フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。

**フォントサイズ**

推奨フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。

推奨フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。

推奨フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。フォントファミリーの選択は、Webブラウザのフォントスタックに依存します。

**文字行間**

本文は175%とし、ヘディングやボタン等は150%で設定する事を推奨します。

行間は、本文の行間と同じか、より大きい値を設定します。

行間は、本文の行間と同じか、より大きい値を設定します。

行間は、本文の行間と同じか、より大きい値を設定します。

**文字行間について**

本文の文字の行間について

style	font-size	line-height: 1.5	line-height: 1.75
H1	42	64	72
H2	32	48	56
H3	26	40	44
H4	22	32	40
H5	20	28	36
H6	18	28	32
Body	16	24	28
Button	16	24	28
Body&Caption	14	20	24
Caption	12	16	20

## ディスレクシアへの配慮

デジタル庁での取り組みのご紹介

## ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック

初めて取り組む行政官や事業者向けの資料

考え方、概要、取り組み方のポイントを解説

JIS X8341以降アップデートされたWCAG2.1の要件を取込み

実装イメージを豊富に採用

### ポイントがわかる

何をどう取り組むか

調達への組み込み方

委託事業者との  
コミュニケーション

意思決定のポイント

## ウェブアクセシビリティ 導入ガイドブック

Introduction to  
Web Accessibility

2023年1月20日発行

デジタル庁  
Digital Agency

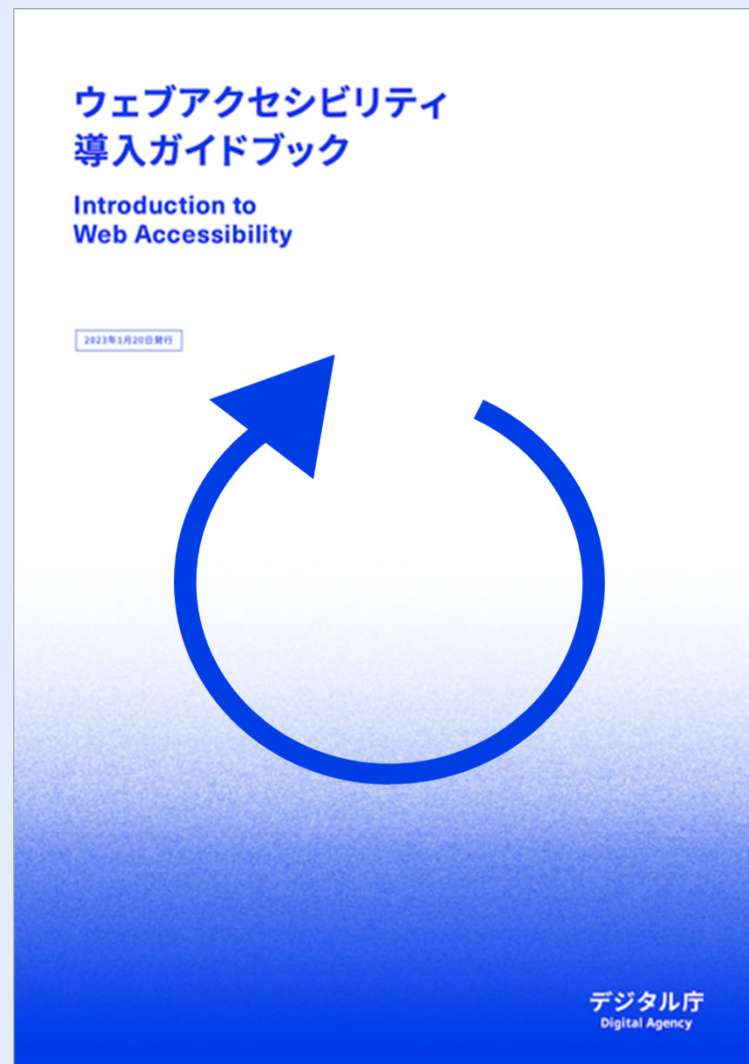
デジタル庁での取り組みのご紹介

## ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック

2022年12月公開

<https://www.digital.go.jp/resources/introduction-to-web-accessibility-guidebook/>

読者からのフィードバックを反映し、これまでに5回の更新を実施  
現在はPDFにて公開。今後HTML版の作成を検討中



デジタル庁での取り組みのご紹介

## デジタル社会推進標準ガイドライン群

サービス・業務改革並びにこれらに伴う政府情報システムの整備及び  
管理についての手続・手順や、各種技術標準等に関する共通ルールや参考ドキュメントをまとめたもの

[https://www.digital.go.jp/resources/standard\\_guidelines](https://www.digital.go.jp/resources/standard_guidelines)

DS-100

デジタル・ガバメント推進

**標準ガイドライン**

DS-110

デジタル・ガバメント推進

**推進標準ガイドライン**

**解説書**

DS-120

デジタル・ガバメント推進

**標準ガイドライン**

**実践ガイドブック**

2022年4月20日更新

## デジタルガバメント推進標準ガイドライン

### a) ユーザビリティ及びアクセシビリティに関する事項（53ページから54ページ）

情報システムの各機能におけるユーザビリティ及びアクセシビリティについて、日本産業規格等を踏まえつつ、情報システムの利用者の種類、特性及び利用において配慮すべき事項等を記載するとともに、国民向けの情報システムの整備に当たり、デジタルデバイドが是正され、全ての国民がその恩恵を受けられるよう、ユニバーサルデザインの考え方等に配慮するものとする。

具体的には、障害者・高齢者を始めとして誰もがICT機器・サービスにアクセスできるよう、整備する情報システムの内容に応じ、総務省が公開している情報アクセシビリティ自己評価様式（通称：日本版VPAT）の書式に基づき、アクセシビリティへの対応状況（あるいは対応予定）を記載するように応札者に求めることで、可能な限り、障害の種類・程度を踏まえた対応状況を確認することにより、環境整備の推進に努める。

注記） 応札者に対し、日本版VPATの書式に基づく対応状況の記載の求めに加え、その他のアクセシビリティ基準等（標準ガイドライン解説書及び実践ガイドブック参照）への準拠の対応状況の確認を求めることを妨げるものではない。



デジタル庁での取り組みのご紹介

## デジタルガバメント推進標準ガイドライン

昨年4月の更新のタイミングで、前述の内容を追記

情報アクセシビリティ自己評価様式だけでなく、JIS X 8341などを用いて  
情報アクセシビリティへの対応状況または対応予定を確認することを妨げない

標準ガイドラインそのものは調達仕様書で引用されるものであるが、  
デジタル庁においては、現時点では調達仕様書等への自己評価様式の  
活用に関する記載などは行っていない

デジタル庁としても、今後も情報アクセシビリティ自己評価様式の  
活用について総務省に協力していく

2022年（令和4年）4月20日最終改定

## デジタル・ガバメント推進標準ガイドライン

— サービス・業務改革並びに政府情報システムの整備及び管理について —

デジタル社会推進会議幹事会決定

【標準ガイドライン群 I D】  
1001

【キーワード】

サービス改革、業務改革、BPR、政府情報システム、ITガバナンス（組織体制、計画管理、デジタル人材管理、予算管理、執行管理、情報資産管理、ドメイン管理、システム監査管理、プロジェクト検証等）、ITマネジメント（プロジェクト管理、予算、要件定義、調達、設計・開発、業務運営・改善、運用、保守、システム監査等）、情報システムの経費区分

【概要】

サービス・業務改革並びにこれらに伴う政府情報システムの整備及び管理に関して、その手続・手順に関する基本的な方針及び事項並びに政府内の各組織の役割等を定める体系的な政府の共通ルール。

## 情報アクセシビリティに関するご意見募集結果#1

令和5年3月、視覚障害者またはその支援者、ITツールの開発者を対象に、普段使っている支援技術やウェブサイト、アプリなどについて広く体験談を募集寄せられた主な意見は以下のとおり

### ウェブサイト・アプリケーション

- 表がtableタグでマークアップされていないと音声読み上げソフトで表として閲覧できない。
- テーブルの見出しや本文が分けられているとテーブル内の項目がどの見出しに含まれるか判別できない。
- テキスト化されていない画像やPDFファイルが多く存在し、音声読み上げソフトで読み上げられず苦慮している。
- 視覚と聴覚両方に障害があるが、視覚障害者向けのアプリは音声にだけ対応していることが多い。
- 日付を入力する項目がカレンダーで表示され、キーボードによる操作では選択できないことがある。
- 音声読み上げソフトに対応していないウェブサイトやアプリが多い。
- 動く光に過敏に反応してしまうため、アクセスすると自動でスクロールされるウェブサイトは困る。

### タッチパネル

- セルフレジや飲食店でのオーダー、チケット購入にタッチパネルが導入される事例が増え、利用が難しい。タッチパネルをスマートフォンに連動し、アプリで操作できるようにしてほしい。
- 精算機の画面のコントラスト比が低く、文字が認識しにくい。

### 特定のウェブサイト・アプリケーションに関する要望

- キャッシュレス決済アプリの画面のアイコンに文字情報がなく、「ボタン」としか読み上げなかったり、無音の箇所があり、使いづらい。
- ラジオアプリがアップデートにより音声読み上げソフトに対応しなくなった。
- e-taxで確定申告を行う際、入力フォームの勘定科目を読み上げなかったり、タブキーと矢印キーで移動する順序が異なり、どの項目に移動したのかわからなくなる。音声読み上げソフトだけで確定申告を完結できるようにしてほしい。
- 店舗アプリで配布されるクーポンが画像のため、何に使用できるのかわからない。
- 音声読み上げソフトを利用してネットバンキングで振り込みを行う際、口座名義人が読み上げられない。
- ショッピングサイトは画像が多く、アクセシビリティに配慮されていないと感じる。画像にテキストの説明をつけるとともに、色などの情報も記載してほしい。
- 視覚障害者の歩行を支援するアプリを使用している。支援者とビデオ通話を行い、リアルタイムで道路状況や障害物を教えてもらっている。AIにより障害物を検知し、歩行を支援するシステムに期待を寄せているが、AIの風景認識能力や使用者に対し状況をどのように伝えるかが課題と考えている。

### 情報機器

- 日本製の情報機器や電化製品はアクセシビリティに関する機能が標準搭載されていないことが多い。
- PCやソフト、ウェブサイトにおいてアクセシビリティ機能を利用する際、色やフォントサイズの変更方法が複雑で設定に手間がかかる。

## 情報アクセシビリティに関するご意見募集結果#2

### 認証方法

- 不正ログインを防止する画像認証・パズル認証が自力で利用できない。
- セキュリティが低いという理由でメールによる認証が減っている。メールや電話、SMSでの認証を増やしてほしい。
- ウェブ上でネットバンキングやクレジットカードの手続きを行う際に操作時間が足りずタイムアウトとなる。マイナンバーカードの公的個人認証サービスを利用した本人確認を拡大すべき。
- 空港の入出国手続きで導入されている顔認証ゲートは視線が合わないと認証できず、利用が難しい。
- ネットバンキングやキャッシュレス決済の登録を行う際に身分証明書の画像添付を求められることが多い。また、自分自身をカメラで撮影することを求められる場合もある。

### 日常生活用具給付等事業

- 点字情報端末が高額のため、在宅用と外出用でサイズの異なるものを購入すると負担が大きい。ウェブサイトのセキュリティが強化され、従来の端末でアクセスできなくなる場合がある。日常生活用具給付を利用する場合、耐用年数を経過しないと給付を受けられない。
- 自治体によって給付対象となる道具や基準額が異なり、格差が生じている。基準額内に収まる製品は少ないにも関わらず、基準額の見直しが行われない。自治体職員が支援技術に関する知識を持っておらず、制度の見直しが難しい。
- 補装具や日常生活用具に挙げられている品目・ジャンル・耐用年数が旧態依然で現状に即していない。PCやスマートフォン、タブレット端末を給付対象に加えるべき。

### 安全確保

- 自転車が行進していても気付かない。疑似的な走行音を発生させてほしい。
- ホームドアが設置されている駅が少ない。地方の無人駅では駅員による案内を受けられず、危険箇所を把握することが難しい。
- 視覚と聴覚に障害を抱えており、災害発生時の避難に不安を覚える。

### テレビ放送・動画投稿サイト

- ニュース番組等で外国語の音声をそのまま流し、日本語訳は字幕で表示することがある。
- 字幕やテロップが音声読み上げに対応していない。
- テレビや動画投稿サイトのコンテンツに映像を解説する副音声をつけてほしい。

### 支援体制

- 視覚障害者向けに音声読み上げソフト等を利用したPCやスマートフォン、タブレット端末の使い方を教える場が少ない。日常で使用するだけでなく、仕事ができるレベルの指導を受けられる場も設けて欲しい。
- ロービジョン向けにPC等のアクセシビリティ機能の使い方を教えてくれる場が少ない。支援者のボランティア活動に依存している。
- スマートフォンのカメラを使って視覚障害者の移動を支援するなど、遠隔での支援ニーズが高まっている。

## 情報アクセシビリティに関するご意見募集結果#3

### マイナンバーカード

- 鍼灸マッサージの施術所を営んでいる。マイナンバーカードを健康保険証として使用する場合、保険証の情報にどのようにアクセスすればよいかわからない。
- マイナンバーカードには凸凹や切り欠きがないため、表裏や上下が判別できない。
- マイナンバーカードを健康保険証として使用する際のアクセシビリティが確保されているか不安を感じている。

### 行政機関

- 行政手続きは紙の印刷を求められることが多い。オンラインで手続きを完結することを義務化すべき。
- 行政機関のLINEの公式アカウントにおいて、メニューにラベルがついておらず、何の項目かわからない。

### デジタル庁アイデアボックス

- 画面のコントラスト比が低く、視認しにくい。
- フォントサイズや画面の色の設定を変更できない。
- 音声読み上げソフトだけでアイデア投稿するのは難しい。レイアウトを工夫すべき。
- ウェブサイト上にアイデアを投稿するまでの具体的な流れを記載すべき。

### その他

- 音声コードのついている郵便物が少ない。せめて行政機関の郵便物には音声コードをつけてほしい。
- 音声読み上げソフトの漢字の読み方がおかしいときがある。
- 点字翻訳において例外的なルールが多いとともに、地域特有のルールも存在している。点字翻訳された書籍が少ない。
- 音声で情報を得るのは時間がかかり、再生速度を上げても限界がある。
- 二次元コードがどこにあるかわからず、読み取りが難しい。
- 視覚障害に対するアクセシビリティ対策は全盲にフォーカスされることが多い。ロービジョンの見え方の多様性が社会に理解され、対策が進むことを願う。
- スマートフォンの普及により、情報通信機器を使いこなせるか否かで健常者と視覚障害者との格差、視覚障害者同士での格差が広がったように感じる。カセットテープや点字を利用していた時代は、障害者間の格差はそこまで大きくなかった。

デジタル庁  
Digital Agency

THANK  
YOU!